

3年生 21人、合言葉は… 「ダメ、ゼッタイ！」

2月15日、忠類中学校で帯広さくらライオンズクラブの高橋好志子会長らを講師に招き「薬物乱用防止教室」が行われ、3年生21人は薬物の恐ろしさを学びました。

▼真剣な表情で話を聞く生徒たち



忠類中学校では毎年、3年生を対象に薬物乱用防止教室を開催しています。講師は、帯広さくらライオンズクラブの高橋好志子会長と土谷節子第1副会長が務め、DVDを使い、麻薬の種類や薬物を乱用したときの症状などを説明しました。帯広さくらライオンズクラブでは、奉仕活動の一環として薬物乱用防止教室を小、中学校や高校で行っています。講演の中で高橋会長は「薬物を始めるきっかけは、友だちとの繋がり。薬物を勧められたとしても強い気持ちで断って！」と説明しました。土谷副会長からは、薬物に関する問題を出題しました。ほとんどの生徒が正解すると「忠類中学校の生徒はとても優秀。今日学んだ知識をこれからはしっかりと活用してほしいました。」

強い気持ちで断る！



▲薬物の恐ろしさを説明する高橋会長

最後は、号令の代わりに「ダメ、ゼッタイ！」といつ掛け声で授業を締めくくり、生徒たちは薬物に手を出さないことを誓いました。授業を受けた村田君也さんは「薬物の恐ろしさなどを知ることができ、とても強くなった。」と感涙を語りました。

忠類中学校 今昔物語



▲開校当時の旧忠類中学校



▲現在の忠類中学校

開拓の鉤が忠類に振りおろされたのは、今から120年前の明治27年。大樹村から分村し、忠類村となったのが昭和24年。それから遡る2年前の昭和22年に教育基本法、学校教育法が制定され六三制といわれる新学制度が実施されました。この年、大樹村立忠類中学校として忠類小学校に併設するかたちで開校され、114人の生徒が在籍していました。開校当時は、教室不足のため小学校や役場庁舎として予定されていた公民館などで授業が行われていました。昭和30年代までは生徒数が増加し、200人以上在籍していた年もありましたが、時代の変遷とともに生徒数が減少し、現在は生徒数48人。これまでに2923人の人材がこの忠類中学校を卒業しています。

学校概要

学校長 佐野 悦子
 教員数 13人
 学級数 4学級
 (うち支援学級 1学級)
 生徒数 48人

※概要は平成24年5月1日現在

1947年(昭和22年) 大樹村立忠類中学校の名称で忠類小学校に併設する形で開設(生徒数114人)

1949年(昭和24年) 大樹村から分村し、現在地に独立校舎落成

1956年(昭和31年) 開校10周年記念式典を挙げる

1971年(昭和46年) 中当緑中学校が統合

1977年(昭和52年) 開校30周年記念式典と祝賀会を挙げる

1980年(昭和55年) 忠類中学校新校舎(現校舎)が完成し、翌年、落成式を実施

1997年(平成9年) 開校50周年記念式典と祝賀会を挙げる

忠類中学校 の沿革